

厚生労働省  
群馬労働局発表  
平成30年3月2日

【照会先】  
群馬労働局労働基準部健康安全課  
課長 佐藤 寿  
課長補佐 大友 隆  
産業安全専門官 塩野 泉  
労働衛生専門官 茂木 智  
(電話) 027-896-4736

## 平成30年(1月)の労働災害発生状況

— 死傷者数97人・死亡者数0人 —

### 1 労働災害の発生状況 (参考資料:「労働者死傷病報告受理件数表」)

群馬労働局管内における平成30年の労働災害による休業4日以上死傷者数は、1月末日時点での速報値で97人、そのうち死亡者数は0人となっています。

#### 【去年同期と比較した特徴】

- ・死傷者数は10人増加 (去年同期の87人より11.5%増加)
- ・死亡者数は2人減少 (去年同期は2人)
- ・業種別では、道路貨物運送業(9人→17人)、製造業(29人→36人)において死傷者数が増加

\* なお、平成29年の労働災害発生状況(確定値)は、平成30年4月下旬に公表予定です。

### 2 労働災害の防止に向けた取組

#### ①「雇入れ時教育」等の徹底 (参考資料:「労働災害が増加しています!!」)

休業4日以上労働災害による死傷者のうち、3割以上を経験年数1年以内の労働者が占めています。年度初めは、雇入れ、配置転換等で新たな作業に就く労働者が多く、経験年数が浅い労働者の被災を防止するためには、法定の「雇入れ時教育」「作業内容変更時教育」が事業場で確実に実施されることが重要です。

そのため、雇入れ時教育等の徹底をはじめとした未熟練労働者に関する災害防止対策について、次期労働災害防止計画において重点的に取り組みます。

#### ②一酸化炭素中毒予防の周知・啓発 (参考資料:「一酸化炭素中毒による労働災害発生状況」)

一酸化炭素(CO)中毒による死傷災害は、CO中毒予防の取組強化について関係団体へ緊急要請を行った10月以後も依然として発生しています。平成29年は、災害件数、死傷者数ともに近年例を見ない多さであり、発生した災害の全てにおいて、ガソリンエンジン等内燃機関からの排気ガスが中毒の原因でした。

なお、平成29年に発生した4件の災害の全ては、一度に3人以上の労働者が被災した重大災害です。

そのため、CO中毒予防に関する周知・啓発を引き続き展開します。

# 平成30年 労働者死傷病報告受理件数表

平成30年1月末現在  
群馬労働局

業種別	署別	高崎	前橋	桐生	太田	沼田	藤岡	中之条	群馬局計	前年同期	増減
製造業		6	19	2	6	2	1		36	29	7
	食料品製造業		8		2				10	7	3
鉱業											
建設業		1	2	2			1		6	11	-5
	木造家屋等建築工事		1						1	1	
運輸交通・貨物取扱業		1	9	3	2	1	1		17	12	-1
	道路貨物運送業	1	9	3	2	1	1		17	9	8
林業		1	1						2	1	1
上記以外の事業		6	14	3	5	3	3	2	36	34	2
	卸売業・小売業		5	1	2			1	9	10	-1
	通信業	1	2		1		1		5	3	2
	医療保健業・ 社会福祉施設	2	1		1	1	1		6	8	-2
	旅館・ホテル業	1	1						2		2
計		15	45	10	13	6	6	2	97	2	-2
	前年同期	15	35	6	19	4	3	5	87		
増減		-1	-1	4	-6	2	3	-3	-2		

## 災害の種類別

災害の種類別・署別	高崎	前橋	桐生	太田	沼田	藤岡	中之条	群馬局計	前年同期	増減
転倒災害	5	9	3	4	4	2	1	28	24	4
食料品加工用機械災害		1						1		1
建設機械災害		1						1	2	-1
クレーン・玉掛災害						1		1	3	-2
外国人の災害	1	1			1			3	3	
公共工事の災害	1							1	3	-2
交通労働災害		4	1	2		1		8	1	-1
荷主先災害		3	1					4	5	-1

注1 この表は、死亡及び休業4日以上労働者死傷病報告を集計しています。

2 各項目の下欄は死傷者数合計、上欄は死亡者数で下欄の数の内数です。

3 下の表は災害の種類別で、特に項目を設定して集計しています。

# 労働災害が増加しています!!

被災者のうち新たな作業についてから  
**3人に1人が1年以内**に  
 被災しています（被災者の経験年数の内訳より）

★平成28年に群馬労働局管内で発生した休業4日以上労働災害による死傷者数（2,359件）を経験年数別にみると、**経験年数1年以内**の死傷者数が729人で全体の**30.9%**を占めています。

さらに経験年数1年以内の内訳をみると、**6か月以内が54.6%**を占めています。

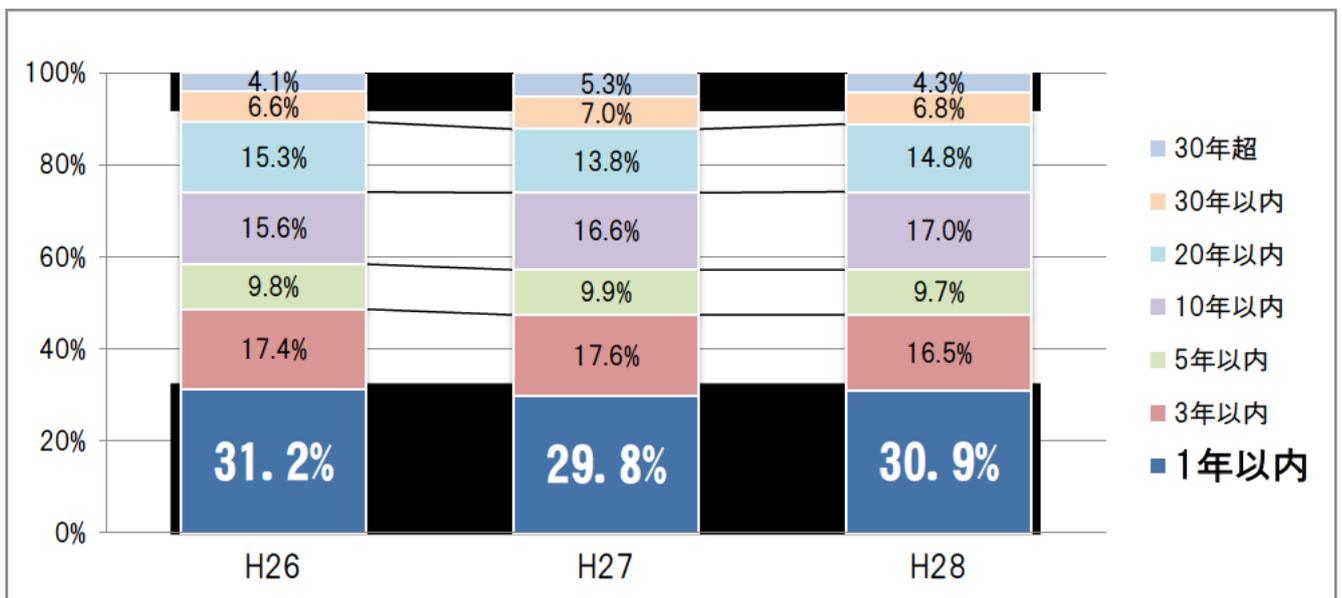


図-1 経験年数別労働災害発生状況割合の年別推移  
 資料:労働者死傷病報告

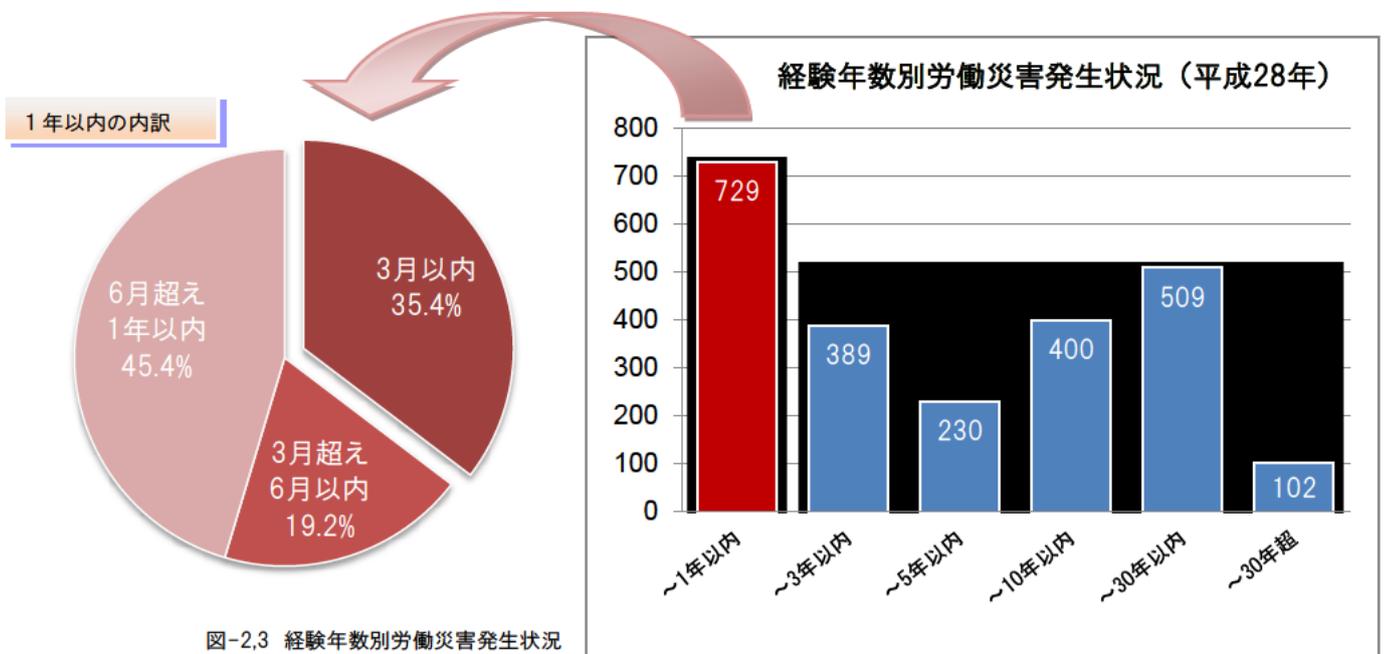


図-2.3 経験年数別労働災害発生状況  
 資料:労働者死傷病報告(平成28年)

★経験年数 1 年以内の労働災害は、**製造業**と**商業**で多く発生しています。  
 事故の型別でみると、「**転倒災害**」と「**はさまれ・巻き込まれ災害**」が多く発生しています。

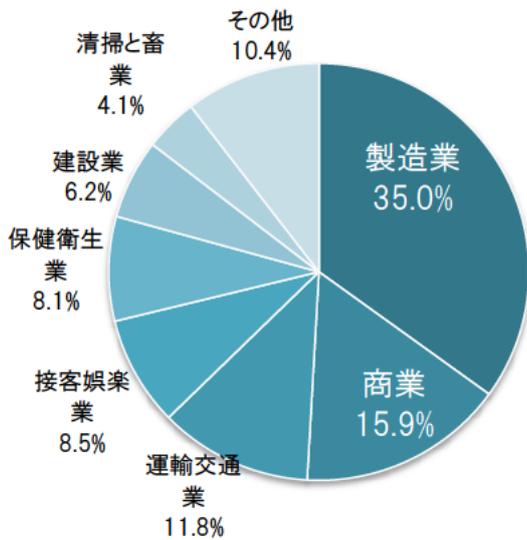


図-4 経験年数 1 年以内の業種別労働災害(平成 28 年)  
 資料:労働者死傷病報告

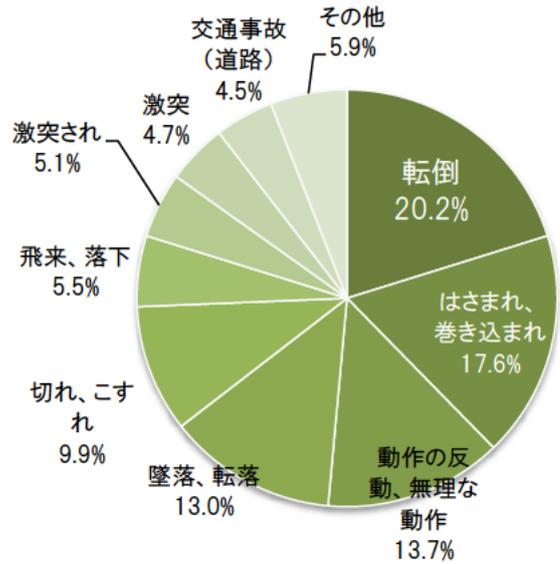
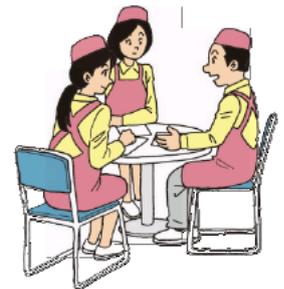


図-5 経験年数 1 年以内の事故の型別労働災害(平成 28 年)  
 資料:労働者死傷病報告

## ～事業主の皆様へ～

■雇入れや作業内容を変更し、新たな作業については、労働災害を防止するための**安全衛生教育を必ず実施**しましょう



## ～労働者の皆様へ～

- 1 雇入れ時等に受けた**安全衛生教育**を確実に守りましょう。
- 2 職場の**整理整頓**を実施しましょう。
- 3 **機械のカバーは勝手に外さないこと**、また、**掃除等の際には機械の停止を必ず確認**しましょう。
- 4 保護帽、安全靴などの**安全装備**は正しく着用しましょう。



# 一酸化炭素(CO)による労働災害の防止について

群馬労働局健康安全課

一酸化炭素(CO)は、無色・無臭で毒性がきわめて強い気体です。COを吸入すると血液の酸素運搬能力が低下することでCO中毒が起こります。CO中毒は、軽度の頭痛、吐き気等から始まり、その後、昏倒、致命傷に至るため、無意識のうちに被災するという特徴があります。

全国での、CO中毒による労働災害の近年の事例には、次の特徴があります。

- 狭隘な場所において内燃機関を動力とする機械等を使用したことで発生したCOにより被災する例が多いこと。
- 食料品製造業、ホテル旅館、飲食店等において、ガス燃焼機器、調理用器具等から発生したCOにより、調理作業員や設備工事業者等の複数の労働者が同時に被災する例が多いこと。
- 鉄鋼業、製鉄業においてのCO中毒は、点検、メンテナンスの作業中に被災する例が多いこと。
- 溶接作業によって発生したCOによる中毒の事例が散見されること。

群馬労働局管内においても、平成29年には、内燃機関からの排気ガスの吸入が原因とみられる4件(死傷19人、うち死亡1人)のCO中毒による労働災害が発生しています。

CO中毒を防止するための基本的な事項は、次のとおりです。

- ① 労働衛生管理体制  
作業責任者の選任、作業手順書の作成と遵守
- ② 作業管理  
作業開始前の燃焼装置・給排気設備等の点検、作業中の換気・送気、CO警報センサーの携帯、呼吸用保護具の使用、異常時の措置
- ③ 作業環境管理  
濃度測定の実施、換気装置の性能確保
- ④ 健康管理  
健康診断又は健康測定の実施
- ⑤ 労働衛生教育  
雇入れ時及び作業内容変更時等あらゆる機会を活用した計画的かつ継続的な教育の実施

特に、内燃機関、練炭、ガス機器等におけるCO中毒の防止のためには、換気の必要性についての教育を徹底する必要があります。

CO中毒による危険は、業種や職種を選びません。各事業場におかれましては、CO中毒の予防対策の推進に、より一層努めていただきますようお願いします。

## 一酸化炭素中毒による労働災害発生状況（群馬労働局管内）

### 1 平成 29 年における一酸化炭素中毒による労働災害発生状況

#### ◎平成 29 年 8 月発生 8 人休業

建設業者が他社工場内で機械据付を行うため、手押式コンクリートカッターを使用して、コンクリート床面を破碎する工事を開始し約 3 時間が経過したところ、工事場所周辺で加工作業を行っていた工場労働者 8 人が、手押式コンクリートカッターの内燃機関から排出された排気ガスを吸入し、一酸化炭素中毒症状を発症した。

#### ◎平成 29 年 10 月発生 1 人死亡、2 人休業

直径約 3 m の水路管（ずい道）の補修工事において、労働者 3 人が内燃機関付き高圧水洗浄機を使用してずい道内壁の洗浄作業を行っていたところ、内燃機関から排出された排気ガスによってずい道内の一酸化炭素濃度が上昇し、意識消失や中毒症状を呈した。

#### ◎平成 29 年 10 月発生 4 人休業

修理業者による機械搬入を修理発注元事業場の労働者 4 人が手伝っていたところ、修理業者が原動機付きアーク溶接機を使用して溶接を行い、原動機からの排気ガスにより修理業者は嘔吐等の一酸化炭素中毒症状を発症した。退避した労働者 4 人も一酸化炭素中毒と診断された。

#### ◎平成 29 年 12 月発生 2 人休業（2 人休業 0 日）

地下 1 階のポンプ室において、労働者 4 人で内燃機関付き高圧水洗浄機を使用して温泉配管を洗浄していたところ、内燃機関から排出された排気ガスにより労働者 4 人が一酸化炭素中毒症状を発症した。

### 2 過去 10 年間の一酸化炭素中毒による労働災害発生状況

	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
死傷災害件数[件] (死傷者数合計)[人]	1 (2)	1 (1)	1 (2)			2 (2)	3 (6)			4 (19)
休業 4 日以上 の死傷者数 [人]	2	1				1	2 【2】			6 【1】
休業 0～3 日 の負傷者数 [人]			2			1	4			13

注：【 】内は死亡災害で内数

### 3 過去 10 年間の一酸化炭素中毒による労働災害の発生傾向（発生源等・業種別）

	食料品 製造業	金属製品 製造業	鉄鋼業 鋳物業	建設業	飲食店	その他	計
内燃機関		8		5 【1】		10 【2】	23 【3】
発電機							
車両、船舶（エンジン）						2 【2】	2 【2】
コンプレッサー							
高圧洗浄機				3 【1】		4	7 【1】
コンクリートカッター、 はつり機		8		2			10
アーク溶接装置						4	4
ガス機器	4				1		5
鉄鋼設備			3				3
炭・練炭							
火災							
その他						1	1
計 (人)	4	8	3	5 【1】	1	7 【2】	32 【3】

注：【 】内は死亡災害で内数